

タウンミーティング 会議録

日 時：平成20年11月21日（金） 19:00～20:38

場 所：黒部市民会館（三日市）

テーマ：1．観光・交流の促進について
2．医療の充実について
3．子育て支援・学校設備の充実について
4．消防・防災体制の充実について

参加者：92人

【事務局】

ご苦労さまです。ご案内の時刻になりましたので、ただいまから平成20年度黒部市タウンミーティングを開催いたします。

今年も昨年同様に市内の4つの中学校校下ごとに開催することとしておりまして、本日は初日であります。

今回のテーマにつきましては、観光・交流の促進について、医療の充実について、子育て支援・学校設備の充実について、消防・防災体制の充実について、以上4つのテーマです。

最初に、市長からこのテーマについて約15分ご説明申し上げます。その後、事前に発言の申し込みをされた方、その次に、会場の皆様方から順次ご意見、ご提言をお受けいたします。終了時間は8時30分ごろをめどとして進めていきたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

また、先ほど受付でアンケート用紙をお配りいたしました。この場でご発言できなかったご来場の皆様からも自由にご意見をいただきたいと思いますので、日ごろから感じておられることをご記入くださいますようお願いいたします。お寄せいただいた意見につきましては、今後、市政運営の参考にさせていただく予定にしております。

ここで、皆様におわびを申し上げたいと思います。

今回のタウンミーティングの開催案内及び優先的にご発言される方の募集につきまして、市の広報でのご案内のほか、チラシも各家庭に配布させていただきましたが、このチラシにつきましては、優先的に発言される方の応募締め切りである11月7日近く、あるいはその後に家庭に届いたというところがありました。チラシの配布に当たり、各地区へのチラシのお届け自体が遅くなったことにつきまして、この場をおかりしておわび申し上げたいと思います。大変申しわけありませんでした。

それでは、堀内市長からごあいさつとテーマに関して基本的な考え方を述べさせていただきます。

【市長】

詳細については、「市長あいさつ及び課題提起」をご覧ください。

【事務局】

それでは、ただいまから会場の皆様方のご意見、ご提言をお受けいたしたいと思います。係の者がマイクをお渡ししますので、地区名、お名前につき、ご意見等を述べていただきます。

もう一つお願いがあります。このタウンミーティングでは、限られた時間の中でできるだけたくさんの方

方からご意見をちょうだいしたいと考えておりまして、ご発言はなるべく簡潔に、お一人3分以内ということをお願いいたします。

それでは、あらかじめご発言を申し込まれました牧野のAさんからお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

【Aさん】

こんばんは。三日市地区のAと申します。よろしくお願いいたします。

今日は、消防・防災体制の充実について、現況と今後の課題を私なりに考えてみましたので、よろしくお願いいたします。

現在、黒部市消防団三日市分団には、44名の団員とポンプ車2台があり、地域の皆さんが安心して暮らせるよう団員一同努力しているところです。先日、三島町内で焦げ臭いにおいがすると警察に一報が入り、三日市分団員にも招集がありました。現場に行きましたところ、警察と消防本部が調査しておりました。

現在、三日市分団では、メール配信によってこのような状況が団員に伝わるようになっていますが、周辺の地域の皆さんにはこのことはわかっていません。万が一のことを考えて、安心して暮らせるように情報の配信システム、防災スピーカー、サイレン等の増設などを考えていただきたいと思います。

【市長】

Aさんから、消防関係のサイレンとか広報無線を増やしてほしいというご質問でありました。まずもって、三日市分団の団員ということで、日ごろから大変ご尽力をいただいておりますことに対し、心から感謝を申し上げたいと思います。

知っておられる方は多いんですが、今、市の消防団の皆さん、あるいは消防の職員、そして、市の一般職の者で届け出をしておる者、約400人ほどが防災メール、私もそうなんですが、携帯に防災メールということで、火災発生とか、鎮火とか、そういうものがメールで送信されるような、そういうシステムに今現在なっています。ただ、それが消防関係の人と市の職員ということに今のところ限られておるものから、400名の方がそういう防災メールを受信できる体制にあります。

ただ、一方では、今言われるように、一般住民の方がそういう火災の発生とか、災害の発生のおきにもう少し速やかにわかるような、そういう広報のためのサイレンとか、拡声器みたいなものを取りつけてということではありますが、現在、火災のおきにサイレンを鳴らしているんですが、旧黒部市の範囲内では14カ所あります。大体、1校下10カ所なんですが、三日市と東布施と生地が2カ所ずつありますので、大体そういうふうなサイレンで火災などをお知らせしているということでもあります。

ですから、サイレンというのは、どちらかというと風向きとか、特にこういう今日みたいに寒い日は戸を閉めっ放しにしているとなかなか聞こえないというようなこともあります。ただ、サイレンを少しぐらい増やしても、その状況というのはあまり変わらないので、もう少し皆さん方にそういう災害をお知らせする方法というのは検討しなければいけないのかなというふうに思っております。

もう一方では、防災行政無線の中で屋外スピーカーというものが市内23カ所ほどに取りつけられております。これはスピーカーでしゃべるわけですが、これも黒部川沿岸あるいは海岸、そして、布施川沿岸を中心として23カ所ほど設置されているんですが、これも何を言っているのか、何か言っておるなということもわかって、なかなか内容がわからんというようなご指摘もいただいているところであります。

もう一つは、自治振興会の皆さんには、町内の町内会長さん方などのお宅には個別の無線の受信機、これは市内で250個ほどお取り付けいただいて、そういう緊急放送などが聞けるような体制にしております

が、それでもなかなか全市的にはそういうふうな受信ができないということでもあります。

宇奈月では、実は旧の宇奈月町の時代から各戸にそういう防災無線が個別に配置されておりまして、おむね全戸、そういう防災緊急時のいろんな放送が聞ける体制であります。旧黒部のほうを全戸、そういうふうにするということは非常に難しいのではないかとこのように思っておりますので、どういう方法がいいのか、さらに検討をしなければいけないんですが、なかなかいい方法がないというのが現実かなと思っております。

最近、国民保護計画というものがございまして、先日も黒部市と県とが連携して、国民保護の図上の訓練を行ったところでありますが、そういうときは、今、国のほうは、Jアラート、全国瞬時にそういう全国瞬時警報システムというようなものを行える体制を整えようとしております。それは、やはり他国からのテロとか、あるいは大きな自然災害が起こったときに、衛星通信で全国のそういう個別無線機の拡声器に向かうのほうから自動的に放送が入るような、そういうシステムを設置しようとしておりますが、今のところ黒部市はまだそういう体制にはなっておりません。

このあと無線のデジタル化というものをしなければならぬ状況になっているんですが、無線のデジタル化に合わせて、そういう全国の瞬時警報システム、Jアラートのそういう放送が受け取れるような体制の整備を行っていきたいというふうに考えているところであります。そういうことで、なかなかサイレンとか拡声器だけでは十分ではないというふうに思いますので、今後さらにどういうふうに皆さん方に情報提供すればいいかということについては検討させていただきたいというふうに思います。

【事務局】

以上で事前に申し込まれました方のご発言、お一人だったわけですが、これで終わりましたので、次に、本日お集まりの会場の皆様からのご発言をお受けいたします。地区名、お名前につき、お一人3分以内ということでご意見等を述べていただきたいと思いますというふうに思います。発言される方は挙手をお願いいたします。

いらっしゃいませんか。どうぞ遠慮なく、せっかくの機会でございますので、ご忌憚のないご意見等を賜りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【Bさん】

大布施地区のBと申します。お願いします。

学校教育のことでお伺いというか、提言をお願いしたいんですけれども、まず、ハード面とソフト面でいうと、あまりにも知れ渡ったことなんですけれども、ハード面でいうと、桜井中学校がハード面でもあまりにも貧弱、設備的にかなり貧弱なものなので、市役所の建てかえとかもありますけれども、市にお金がないのはだれでも知っていることなんですけれども、同時進行というか、もっと言えば、市役所の庁舎よりもむしろ先に、もっと桜井中学校の校舎の思い切った建てかえなりの対応をとっていただきたいという思いを強く感じます。

もう一つ、ソフト面ですけれども、先般も三日市小学校で行われた外国語教育、特にここでは英語ですけれども、ちょっと時間の都合が合ったので、三日市小学校のほうにも入って実際の英語の学校教育を見てきたんですけれども、何分大人になってからは外国語というのはなかなか身につかないし、やろうにも覚えられないし、聞き取れる、いわゆるコミュニケーション能力というのはなかなかつかないんですけれども、さすがに児童生徒は柔軟な頭がありますから、ALTとか、担任の教諭とか、補助教員のもとで、しかも、特に感じたのは、中学生もそうですけれども、児童の生き生きと、はっきり言って、すごくかな

り生き生きと授業、外国語の教育を受けているなということで、自分なんかは、r aとl aの発音の違いとか、そういった一方的にしゃべってでも聞き取れる力がつかなかったらコミュニケーションってとれないと思って、提言とすれば、ALT、お金はかかりますけれども、だれか桜井中学校に1名とか、中央小学校に1名とか、三日市と前沢小学校で1名とかというふうに、実際の英語を話せる人が必ずその学校には常駐していると。実際、話し方とか、児童生徒がわからないと感じたときにどのように話すのかということやすぐに聞いて学べるという状況にしてもらわないと、なかなか週1回とか少ない回数では、せっかくその能力が余ってでも、またその次のテンションまで持っていきにくいのにエネルギーと時間がかかると思うので、外国語のハードルというか、敷居を下げて、学問の勉強としてはちょっと別にして、会話、ドイツのおじいちゃん、おばあちゃんが別にドイツ語の難しい文法をわかって話しているわけでもなく、日本でもおじいちゃん、おばあちゃんがそういう難しい文法的に正しいかどうかは別にして、実際に会話が成り立つということを考えると、小さいころから外国語等に、英語ですけれども、聞き取れる力をつけるということを考えると、ALTの方には必ず1名学校に常駐してもらって、こういうときにはどういうふうに表現するのかとか、いつも耳で聞いている状況をつくってもらいたいなという、その2点を、耐震のことも考えているんですけども、桜井中学校の建てかえ、あと、ALTの常駐、学校に1名必ずいると。小規模の学校であればちょっと難しいと思うんですけども、兼ね合いということになると思うんですけども、人数の多いところから1名ずつは必ずいてほしいと、そういうハード、ソフト面のことを感じていますので、市長の考えを伺いたいと思います。

以上です。

【市長】

桜井中学校の建てかえについては、今の総合振興計画の10年間、平成29年までの中で実現できると、したいというふうに考えております。

さっき提言のところで見ましたが、学校教育基本計画というものが立てられておまして、その中で、学校の施設設備の充実というところで、今行っていることは、中央小学校のランチルームと体育館の建てかえについては、今、設計に入るところなんですけど、来年の7月ぐらいまでに設計を行って、22年、再来年までにはランチルームと体育館は建てかえしたいというふうに考えております。その後、幾つかの耐震化の予定もあるんですけど、そういうところとの兼ね合いを見ながら、次は桜井中学校ではないかなというふうに考えております。

そこで、最初にBさんが言われたお金のないのはわかっておりますがということなんですけど、全然ないかということではなくて、今、我々が10年間の財政見通しを立てて、これから10年間でどれだけの投資事業をするかということやほんとうに慎重に検討しております。その中で、今後10年間、ハード事業において三十数億円ずつのハード事業をやろうということや考えています。

例えば、その三十数億円の中では、そういうお金はどうやったらできるのかという話の中身に簡単に触れますが、一般財源、要は生で黒部市が出さなければならぬ一般財源で出せる範囲というのはおおよそ5億円程度です。その5億円程度の一般財源と、そして、当然行財政改革の中で財政状況の改善、要は借金を減らしながら、私らがこれから1年ごとにやって、新しい借金、新規の起債を起こせるのは15億円範囲、おおよそ15億円までは借金をしてでも、年間、例えば平成27年度で公債費、借金は27億円返していけます。今年度は27億円余ですけど、返す予定です。

そして、新規の起債、借金は15億円の範囲であれば、これ以上借金が增えることがなく、徐々に改善をさせていくことができるだろうと。一般財源が5億、新規の起債が15億、それで20億、そして、そういう

事業を行うことによって、いろいろ個別に具体的に検討しているんですが、大体十二、三億円、国、県の支援がいただける、支出金がもらえるという計算になります。ですから、国、県から大体十二、三億、年間ですよ。それに15億の起債、そして、一般財源を合わせれば、三十数億が大体これから10年間にわたって投資できる予算であるというふうに考えております。

そこで、その三十数億円をそれぞれ何に使っていくかということをも今の総合振興計画の中で個別事業をすべて洗い出して、それに予算をつけて、そして、年次計画を立てて、年度ごとに今言ったようなことがクリアしているかどうかを検討して、今ある計画をそれぞれ精査しているところであります。ですから、あれもこれもというふうに聞かえるかもしれませんが、それらを年間を通して三十数億円に平準化しながら、それぞれ今抱えている課題を実現していけば、10年間の中ではおおよそのことはできるというふうに思います。

その中で、教育委員会のほうでは、先ほど言った中央小学校の改築、あるいはその後は幾つかの小学校の耐震化などもあります。それらを見据えた上で、桜井中学校はあまり遅くならないうちに建てかえをしなければならぬだろうというふうに思っております。この10年間の計画の中では入っております。それとは別に庁舎のことを触れられましたから言いますが、あわせて庁舎もあるタイミングで実現したいというふうに思っておりますので、それらは両立できるというふうに考えておりますので、ぜひそれらをご理解いただきたいと思います。

次に、ソフト事業で言われた英会話のことであります。

先日、平成18年4月から黒部市が小学校1年生から中学校3年生までの英会話教育ということで、英会話を授業として取り入れたことに対する研究発表会がありました。実は、この英会話の国のほうでも、小学校5・6年生においては年間35時間授業化するということを決めました。そのことによって、我々は今まで英会話特区ということで特別に国から許可をもらって英会話を授業にしておったんですが、その特区は解除されました。今年の7月だったかな、特区の認定を取り消して、要は国全体として英会話に取り組むという、我々が先進的に行ってきたことが、黒部市だけでは当然ないんでしょうけれども、そういうことが必要だということで、国の学習指導要領の中に英会話というものが取り入れられたということで、特区ということはいなくなりましたよということで、特区は認定取り消しになりましたが、そういうこれまでの取り組みの研究発表会が三日市小学校で、400人ほどの研究者の方が集まって発表会があったんですが、皆さんからいただいた言葉は、ほんとうに子供たちが楽しそうに英語を使った歌やゲームや、いろんな授業をやっている姿を見て、ほんとうに参考になったというふうに言っていたのが私とすれば大変よかったかなというふうに思っているところであります。

そして、それらに取り組むに当たって、今、実はALT、外国人の指導者の方が6名、CIRという方が1名、要は7名の外国人の方を雇用しております。言われるように、各学校に常駐させるという意見がありますが、今、7名の方をお願いをして、そういう英会話の授業に、どういうローテーションで回っているのか、ちょっと具体的にはわかりませんが、英会話の授業は担任の先生が中心になって、そういうALTの方とか、また、ボランティアで補助の方、海外生活を長くやっておられる方も、そういうボランティアの方もお願いしております。そういう人たちがチームを組んで英会話の授業をしていただいておりますので、実際、生の発音を子供たちは耳にしているというふうに思っておりますし、また、授業時間だけではなくて、ホームルームの時間とか、いろんな時間を利用した英語を使う機会を増やしておりますので、そういう意味では、ほんとうに子供たちの覚えが早いというか、子供たちにとって非常に英会話というものが浸透しているのではないかとこのように思っておりますので、これ以上ALTとCIRを増やすということはなかなか厳しいですが、これを減らさないように、7人おりますので、減らさないように

今後努めていきたいというふうに思います。

【事務局】

Bさん、よろしいでしょうか。
そのほかございませんでしょうか。

【Cさん】

三日市ボランティアの会長をさせていただいておりますCと申します。よろしくお願いたします。
今からする質問は、昨年もこのタウンミーティングで質問したいなと思いつながらなかなか勇気がなく、またこの場になりますので、勇気を持って、ちょっと市長さんにお聞きしたいと思って、お願いたします。

実を言いますと、三日市ボランティアは10町内でボランティア会員が224名今おりますけれども、高齢者の方に、特に子育て支援も行っておりますけれども、子供たちの未来はきらきらと輝いていなくてはいけませんけれども、高齢者の方も寝たきりにならないように、元気の源は高齢者の方が元気でこそ、また、三日市、黒部市が元気であるのではないかなと思っております。

それで、私たち、おたっしゃクラブ、それから、市の社協のほうから委託事業として私たちが受託させていただいておるわけですが、おたっしゃクラブ、ふれあいランチ、それから、介護入門教室を保健センターからの依頼で行っておりまして、いつも感じていることは、お年寄りの高齢者の方たちは、各地区の公民館等で、室内で体操したりとか、寝たきりにならないようにとか、それから、また、指先でいるんな小物をつくったりとか、七夕のときのコンテストに出したりとか、そういう手で物をつくったりすることもありますけれども、また、ふれあいランチはもちろんなんです。おいしい食ということで、食べる楽しみということもありますけれども、もう一つ、高齢者の方がいつも楽しみにしていられるのは、外へ出かけたいという願いがたくさんあります。それで、おうちから家族の方で出かけることも多いとは思いますが、やはり日中、家の方がお仕事に出かけている間、自宅で一人になっておられる高齢者の方たちを対象としておたっしゃクラブとしているものですから、出かけるときは福祉センターのバスを利用するというのを常にしております。

それで、ご存じのとおり、福祉センターは月曜日がお休みということで、月曜日は自由に使ってくださいということで、シルバー人材センターの方の運転の中で1日バスを借りることもあるんですけど、必ず月曜日に利用できるということは、それぞれの事情でありますので、平日、バスをお借りするということは、福祉センターを利用していらっしゃる高齢者のお年寄りの方を送って、それから、そのあいた時間、夕方までの間にそのバスを借りて、私たちは近くへ出かけたり、魚津市、富山のほうも出かけたり、また、ボランティア、お世話させていただいている私たちもまた研修でそのバスを借りたりしているんです。

先日も福祉センターのバスのお借りをお願いしたんですけども、9時半という時間に高齢者の方をそれぞれ送って福祉センターへ行かれるということで、なかなか私たちの思った時間にはできないのはわかっておりましたが、帰りもまた1時間早めてください、早く終わりますとおっしゃって、なかなか思うとおりにできないんですけども、黒部市のバスがありますけれども、あのバスを、大きな行事とか、議員さんたちが視察のときは、もちろんそのバスが使えないのはわかっておるんですけども福祉センターのバスの都合の悪いときは市のバスを私たちがお借りできないかということを保健センターからも市のほうにお聞きしていただいたこともあるんですけど、なかなか難しいということでお答えいただいております。

んですけれども、ほんとうにお願いすることはできないんでしょうか。ちょっとお聞きしたいと思ひまして、お願いいたします。

【市長】

市のバスも頻繁に使っているんで、ちょっと状況が今のところですぐわかっていないんですが、今言われるようなボランティアの皆さん方が必要なときに、バスを今、月曜日は借りているということですが、市のバスなりでどういうふうな障害があるのかということを確認させていただいて、やはりボランティアの皆さん方がもう少し自由にバスなどを使えるようなことが可能かどうかということを検討します。

このことについてはご返事もしますので、今、市が所有しているバスの中で、何台かありますので、どういう配置というか、体制にしておけば少し余裕が出せるものもあるのかどうか、あるいは運転手の方をどうするのかとか、ほかにどのような問題があるのかというようなことをちょっと確認しまして、答えについては、せっかく皆さん方がボランティアで熱心に高齢者の皆さん方をいろいろお世話していただいておりますので、そういうことぐらいはできないということでもないような感じがしますので、ぜひ確認をさせていただいて、できればいい返事ができるように検討させていただきたいと思ひます。

【事務局】

Cさん、よろしいでしょうか。

【Cさん】

ありがとうございました。

【事務局】

そのほかございませんでしょうか。

【Dさん】

三日市の8号線から上の中学校の関係のことですけど、たまたま今日、ニュースで暴力が非常に多いと。おとつい雪が降って、帰りに雪だるまでふざけて歩いて、いじめていた子を見たけども、うかつにそういうことをせんもんやと私は注意したことがあるんですけども、また学校の先生にもそういう市のほうから注意したほうがいい。家庭へ帰ったら、父兄の方にも注意していただく、そういうふうに市のほうから言った方がいい。これは市民が学校へ直接言うよりいい。私は、新天の交通を代表して年に安全週間みたいなものやってみんなに話をきいてみてそう思ったんですけども。

それと、もう一つ、老人のことで、魚津、滑川、入善へ行ってもコミュニティバスがかよっている。老人たちが各ショッピングセンターへ東回りとか西回りとかで回っておるけど、黒部がないということは、予算がないということでつらいんですけども、そこを何とかして。これからだんだん年をとってくるから。各ショッピングセンターは黒部で何力所があるけど、センターから少し、ガソリン代ぐらいひとつもらってでもお客は来るからと、そういう交渉して、何とかして年寄りのためだけじゃなくて、市民のために努力してもらいたいと、そういう老人会の中でも話がでています。私は新天町内で、三日市の11町内の中で役員としていろいろ話しているんですけど、そういうほうにお願いできないものんでしょうか。この場を借りて。

あと、もう一点、下水道ですけど、平成18年に新天町内でやって、桜井中学校の方の下水は元が来てお

らん。そういう点で。

【市長】

ありがとうございました。

まず、最初に言われたいじめというようなことがあるかどうかというようなこと、これは大変大事なことになるので、そういうことを目撃されておるといことであれば、学校のほうを通して、教育委員会、学校のほうで確認をしていただいて、そういうことが起きないように、それは徹底していきたいというふうに思っておりますので、教育委員会の関係の方も今日おられますから、それはぜひすぐに確認をしていただきたいと思います。

次に、コミュニティーバスの件については、私も当然必要だと思っておりますし、今、コミュニティーバスをどういうふうなルートで、どういうような頻度で実施するかということについては、内部的には検討しております。そこで、ほかの地域というか、市町と若干違うのは、非常に我々が注意というか、考えておるのは地鉄線ですね。まずは、この富山地方鉄道を利用したまちづくりをぜひこれからも続けていかなければならないというふうに考えております。

見られたとおり、かつてに比べれば利用者が減っておるわけではありますが、この富山地方鉄道とともに黒部なり宇奈月地区が発展したことの経緯からしても、あるいは新幹線が開業したときには、この公共交通のネットワークを新幹線の駅に地鉄の駅を併設して、そこで乗り継ぎがスムーズにできて、しかも、その地鉄電車が今のJR線、やがて並行在来線になる今のJR線とスムーズに接続するというようなことについては、これは今後の黒部市にとって大変大事で重大な問題でありますので、この地鉄の利用者をどうやって増やしていくのか。

さらに、かつては、例えば、電鉄の今の黒部駅で1日5,000人ほど利用しておられた方々が今は700人ほどです。それまで激減してきているんですが、それらをやはりこれからの高齢化社会とか、環境問題とか、いろんな地域の発展を考える上で、この地鉄というもの、公共交通というものをもう一度我々は見直さなければ、そういう努力をしなければ、この地鉄の電車にしてでもいつまでも永遠にあるとは限らない。そういうことが継続できるような、我々は地元に住む人間として努力していかなければならないと思っております。

そこで、地鉄の電車を利用するのと、それと、今言われたコミュニティーバスみたいなものをあわせた公共交通というものをどうするか。最寄りの電車の駅までバスが行くような仕掛けみたいなものを今想定しながら、できるだけ地鉄も利用してもらえるように、バスだけで便利に回ってしまったら、なおさら地鉄の利用者が減ってしまうということが、やがてこの地域に大きな影響を与える可能性がありますので、地鉄と、そして、やはりこのコミュニティーバスとをあわせた、そういうような計画を今検討しておりますので、もうしばらくお待ちいただきたいと思っております。

以前は、新幹線開業までというようなことを言っておった時期もあったんですが、そうでない、もっと早い段階でコミュニティーバスと地鉄電車の公共交通の利用の計画を皆さん方にお示しし、そして、皆さん方には、今のような車一辺倒の生活から少しは公共交通を利用した生活に見直してもらおう努力をしていただきたいというふうにも思っておりますので、ぜひもうしばらくお待ちいただいて、コミュニティーバスを整備させていただきたいというふうに思います。

それから、3つ目が下水道のことを言われました。桜井中学校周辺の下水道整備については計画よりも遅れておりました。その点については大変申しわけなく思っております。そこで、今、なかなかちょっと、要は8号線の横断部分が非常に難しかったんですが、計画を一部見直しまして、ルート、要は下水本管を

通す場所を、これまでは荻野石油さんのあそこの川と国道を一緒にまたいでしまおうみたいなことで計画しておったんですが、それが非常に困難なものですから、その本管のルートを変えて、今の三日市保育所のあたりのところを横断するというようなことで計画変更いたしましたので、そこは現実的には可能でありますので、そこらの工事を行って、できるだけ早くということで、もう間もなくできるというふうに思っておりますので、工事に入ればというふうに思っておりますので、その点、少しおくれましたが、ご理解をいただきたいというふうに思っております。

【事務局】

Dさん、よろしいでしょうか。

【Dさん】

どうもありがとうございました。

【事務局】

そのほかございませんでしょうか。時間のほうはまだ、30分ほどあります。

【Eさん】

大布施のEといいます。よろしくお願ひします。観光についてお話を伺いしたいと思ひます。

観光というのは、市長もご存じのとおり、漢字で光を観ると書きます。すなわち、地域のすばらしいものといひますが、誇りに持てるもの、そういうものを教えるというものが観光だといふふうに思ひます。黒部市にはたくさんいろんなものがありますけれども、その中の1つに黒部川があるといふふうに思ひます。しかしながら、今、観光客、外から来た人たちが黒部川を見られるのは、車で来ても、電車で来ても、愛本橋から上、下は見られませんが、見られることは見られるんですけれども、なかなか困難だといふふうに思ひます。そういったことで、できれば観光客が黒部川の堤防を、そこら辺を通れるような、そういったようなことができないかなといふふうに考えます。

例えば、今、バスが宇奈月温泉から生地まで走っています。何とか真っすぐに通るんじゃなくて、黒部川を見せるのも1つかなといふふうに思ひますし、広域観光の面から見ても、同じ扇状地を形成している入善町というものもあります。同じ黒部川を、地元の光というものを全部見られるといふふうに考えておりますので、そういった意味でも、何とか黒部川というものを観光に生かせないかなといふふうに思ひます。

以前聞いたところによりますと、若栗地区のほうでいろんな公園のようなものをつくれないうふうな要望もあったように思ひますけれども、そういったことも含めて、愛本橋よりも下、下流まで何とか観光に生かせれば、県外の人に見せられるようになればいいなといふふうに思ひますけれども、市長の見解をお伺ひします。よろしくお願ひします。

【市長】

黒部川については、私も、もともと黒部川の近くに子供のころから育っておりまして、黒部川でしか夏休みなんかは遊んだことがなかったんですが、プールもありませんでしたし、だから、黒部川のよさというのは十分わかっているつもりであります。

先ほど言われたような若栗地区では、若栗のワンダーランドパークといひますが、若栗地区のグミの群

生地とか、そういうものの自然を生かしたそういう公園を整備したらどうかということはかなり前から要望の中に上がっておりまして、そういうものができれば、やはり1つの自然の観光資源になるのではないかなというふうに思っているところであります。

また一部では、下流まではしていませんが、ラフティングをしておられる方もたまに、ラフティングというのは、ゴムボートみたいなもので急流下りみたいなものが一部マニアみたいな方がやっておられるときもあるようですけれども、もう少し黒部川を観光資源として生かしていくということがやはり大事ではないかなというふうに思いますので、そういう点についても、やはり今の新しく来られた観光マネージャーなんかともいろいろそういう話もしているんですが、ぜひそういう点をさらに生かしていきたいと思えます。

ただ、一方では、観光シャトルバス、今、黒部駅をスタートで生地の魚の駅から宇奈月方面へ上がってくる観光シャトルバスを実験的に期間限定で走らせているんですが、そういうものが管理道路である堤防を走っていいのかどうなのかということについては、少し研究してみなければ今は何とも言えないんですが、ただ、愛本橋とか、あるいは黒部川神社なども1つの物語とすれば非常におもしろいと。

地元の方でも、黒部川神社というものはどうやって建立されて、今、黒部川の右岸に神社のほこらがあって、左岸に鳥居がある。そして、黒部川全体が境内ということで、黒部川のはんらんがないようにみんな祈っている、そういう黒部川神社というものがあって、右岸と左岸堤が一体となった神社がああいうふうにあるということなどがやはりもう少しPRされて、話、物語を聞くだけでも大変地元の我々は感動します。

こんなことを考えてやられたんだというようなことについては、我々もそういう歴史を見聞きしたら非常に感慨深いところがございますので、そういうものをもう少し外部の方に観光というか、そういう形で見ていただいて、あるいは愛本地区の笈橋の、昔、日本三大奇橋と言われた愛本にあった笈橋の2分の1の模型が、今、友学館のほうにあるんですが、あれらもあまり多くの方に見ていただいていないような気がしますので、そういうものも通した黒部川の観光資源としての活用というものはいいのではないかなというふうに思います。

ただ、一方では、水がきれい。今年も日本一の清流ということになったんだけど、残念ながら、水生生物というか、魚がなかなか思うように育たないという状況なので、もう少しその辺は、国交省とも意見交換の中でお願ひしているんですが、水はきれいです。流れている水は科学的な検査では日本一の清流なんだけど、それなら川がほんとうに生きているのかというと、なかなかそこは本来の自然の形の川の状態では一部ないのではないかなと。そういう昔のようにカジカとかアユがいっぱいすむような、そういうような黒部川を取り戻すための努力もこれからさらに、いろいろやってくれておるんですよ。アユのたまり場をつくっていただいたり、いろんなことをやっていただいているんですが、さらにそういうことにも努めていきたいというふうに思っております。

【事務局】

Eさん、どうでしょうか。よろしいでしょうか。

そのほかございませんでしょうか。

【Fさん】

前沢のFと申します。子育て支援についてちょっとお願いしたいと思えます。

若いお母さんたちからのお話なんですけど、今年4人目のお子さんが生まれたお宅がありまして、入善で

すと100万円もお祝い金をいただけるとかというお話をお母さんたちがされているわけなんです。黒部市はどうなんだろうと、全然何もないのねというふうな感じでしたので、私はちょっとその辺はよくわからないんですけども、できれば一遍に100万円、その額もよくわかりませんが、そういうことではなくて、かなめかなめ、おめでたいときに、小学校入学とか中学校、高校、そういうときに何かどかっとあげるとか、医療費を小学生になるまでは免除するとか、それから、給食費、保育料なんかも免除してあげるとか、どれも大変なんですね、一人一人にかかる経費を思いますと。応援してあげていただきたいなというふうに思います。

【市長】

すみません、私、ちょっと記憶が定かではないんですが、3人目から10万円、4人目も10万円です。合併後、お祝い金を渡しております。申請をしていただければ、3人目10万円、4人目10万円、今、職員が右往左往して思い出しておりますが、祝い金はあります。ただ、入善町さんのように100万円というのはございませんが、今、確認に行きましたが、10万円程度のお祝い金はお渡ししております。

もう一つは、子育てにかかるいろんな経費をできるだけ削減していただきたい、安くしていただきたいということで、給食費なども県内の市町から比べれば安いほうでありますし、保育料も安いほうです。それから、子供の医療費については、小学校6年生まで入院は無料です。無料にしてあります。通院は小学校3年生までです。それは、一昨年だったと思うんですが、そういうふうに子育て支援ということで医療費の負担を減らそうということで、子供たちの医療費をそういうようにさせていただきました。

そこで、通院はなぜ3年生でやめたんだというお話をその当時はよく聞かれたんですが、小学校の4年生から6年生の間で、通院で一番かかる医療費は何か調べてもらったら、歯医者代が多いです。歯医者さんにかかる費用がほとんどでありました。そこで、私は、虫歯で歯医者にかからなくていいようにちゃんと健康管理をせよということで、それは有料だといって3年生までの通院費が無料で、ただ、入院は病気とかけがということでもありますから、入院の医療費については小学校6年生まで無料ということに今現在させていただいておるところであります。

済みません、今、事務局から出産祝い金は答えます。

【事務局】

第3子で3万円です。1子、2子の場合にはございません。3子目で初めて3万円、4子以降が10万円ということです。

【市長】

済みません、違っていました。3人目のお子さんは3万円だそうです。4人目が10万円だそうです。ぜひ10万円もらえるように頑張りたいと思います。

【事務局】

Fさん、よろしいですか。

【Fさん】

納得しかねますけど、仕方ありませんね。

【事務局】

そのほかございませんでしょうか。

【Gさん】

こんばんは。前回もちょっとお話しさせてもらった三日市のGと申します。

今から僕が言うのは、夢みたいな話をちょっと言ってもよろしいでしょうか。先ほども質問の中で、水を使ったという観光を兼ねた特産というか、水資源を使った観光地ということでお話があったんですが、黒部市、富山県全体なんですけど、水というのはすごく豊富で、いいところに住んでいるなと僕は思うんですが、水をテーマにした公園とかも1つかと思うんですが、観光というのは、リピーターがいて初めて観光に結びつくのかなと思ったりもするんです。1回来てもらった人にまた来たいと思ってもらうことがお客様であって、単発で来られた人たちに、1回来たからもういいわと言われるのは観光ではないような気がします。

これから観光にも力を入れていかななくてはならない黒部市を、何とか水をテーマに考えていくと、公園とかだとお金ははっきり言ってもらえないと思います。来ていただく方々にお金をいただけるようなテーマランドなどをつくっていくような計画というか、構想があってもいいのかなと。例えばですが、ディズニーランドは千葉にあるんですが、ディズニーランド、大阪にはUSJという、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンというテーマパーク、日本でも大きなテーマパークです。こういったところは一度行ったらまた行きたいという感覚になるんですが、これは企業がやっている1つのテーマパークだと思います。

そこで、黒部市、行政が主体となる、これは夢みたいな話なんですけど、ウォー太郎が今、藤子不二雄さんによって、キャラクターとして黒部市のマスコットになっておりますが、ウォー太郎ランドみたいなもの。テーマパークとか、水をテーマにした観光レジャーランドみたいなものを考えていくのも1つかなど。市内の方からそこに行きたいというんじゃなくて、市外の方、県外の方から、あそこに行ったら1日おれるよとか、1日では回れんから2日かかるよとかということで、泊まるお客さんを増やす計画などもしていくといいのかなと。

例えば、そのテーマパークをつくらうとすると、今、問題になっているニートとか、リストラに遭われた方たちとか、いろいろおられると思うんですが、そういった方の就労支援事業にもつながるような気がします。そこだけが潤うんじゃなくて、やはり旅館もすべて潤うような観光交流市として持っていくのはどうでしょうかということです。

【市長】

ありがとうございました。全国でバブルの時代にテーマパークというのはあちこちに、ディズニーランドも実はできました。そのほとんどが大失敗をして、三セクでやってあったり、いろんな民間でやってあったりして、大失敗して、思い出したんですけれども、夕張さんとか、あそこにも大観覧車があったりしたような気がします。

そういうことからすれば、成功するところというのはあるんですが、なかなか難しい。しかも、リピーターということは、何度も来てもらうには非常に難しい。ディズニーランドというのは、世界一のテーマパークだと思いますが、どんどん中が変わっていくんですね。新しい乗り物とか、いろんな仕掛けがどんどん変わって行って、飽きの来ないような、そういうようなテーマパークになっていますので、ああいうものと競争するというのはなかなかリスクがあるなというふうに思います。

ただ、一方では、黒部の特徴というのは何ということなんだけど、やっぱり水とか、大自然とか、黒部

峡谷とか、そういうものを、実際の自然を生かしてほかのところでないようなもので、この自然の中を1つのテーマパーク的に考えた、そういう仕掛けというものは考えられるのではないかなというふうに思います。

先ほどラフティングという話もしたんですが、実はラフティングとか、人間そのものが川を滑り台で出てきて遊んで流れるというような、いろんな競技というか、遊びもありますので、何か黒部川なり黒部の自然を生かした、そういうもののメッカになれば、そういうリピーターなどにも来ていただけるのではないかなと、そういうふうに思っておりますので、そういう人工でつくっただけのテーマパークではなくて、実際の自然を生かした、何かそういうものの仕掛けをぜひ、一生懸命、今、観光マネージャーなども考えておりますので、アイデアがあればお聞かせいただきたいなというふうに思います。

【事務局】

Gさん、よろしいでしょうか。

あと残すところが、大変恐縮でございますが、10分ほどとなっております。あとお二人ほどのご発言とさせていただきますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

ほかにご意見、ご提案のある方、挙手をお願いいたします。

【Hさん】

若栗のHです。

子育て支援の学校設備費の充実ということなんですけれども、私は、先述のとおり若栗なんです。事情があって三日市小学校を卒業しているんですけれども、若栗小学校の場合を見ますと、図書館、非常に貧弱なんです。今の三日市小学校は知りませんが、私が卒業したころの三日市小学校はそれなりの図書はあったような気がするんです。背が小さかったからかよけいあるように見えたのかもしれませんが、それで、学校図書の充実ということを何か考えてもらえないかなと思うんです。僕自身本が好きなのだからそれなりに読んでおいて、私は参加していないんですけれども、ユネスコの関係で富山で古本市を年2回やっていますよね。そこへ、読み終わったやつを出すということなんですけれども、それから、小学校に子供のためにと本をもらったことがあるんで、もしよかったらということで、そうやって回ったこともあるんですけれども、そういうふうな活動をどんどん進めてもらおうかと思っております、もう少し小学校、中学校等の図書館の充実を図ってもらえないかなということでお願いします。

【市長】

ありがとうございました。

学校図書については、それなりに充実させてきているつもりでおりますので、ちょっと今、実際の状況がどうか、今、Hさんが言われたように、少し貧弱だということであれば、もう少し改善するように、図書というのは、私は、学校図書室もそうですし、黒部市の図書館も非常に老朽化して手狭になって、なかなか利用しやすい状況でなくなりつつありますので、図書館については、文化というか、教育のパロメーターだというふうに思っております、さっきからあれもこれも言いますが、図書館を何とか新しくしたいというふうに考えているところであります、あわせて学校図書についても、今また教育委員会のほうと相談をさせていただいて、充実できるように努めていきたいというふうに考えております。

限られた時間ですので、ちょっとそれた話をします。もうお一人か二人だということなので。

実は、先ほど最初に言いました学校教育基本計画というものが今年の2月に策定されました。これは学

校の再編まで組み込んでおります。小学校、宇奈月地区は4小学校が1小学校に18年3月からなったということです。あわせて、今の旧黒部の小学校10校を今後どうするのかという再編についてもここには書かれております。

まずは、今日はここでその議論をする時間はもうありませんので、ぜひこういうものをご覧いただいて、こういうふうに検討が始まるんだ、検討していくんだということで認識だけしておいていただきたいと思いますので、これには、東布施と田家小学校の再編統合に向けて平成25年ごろまでの統合が必要と考えられるというふうに、年度をまたいで25年です。そして、下のほうには、三日市小学校と前沢小学校については、平成30年ごろまでの統合が必要と考えられるというふうに書かれておる。

それから、次に、考え方の3として、荻生、若栗小学校の統合についても、将来統合を検討する必要があるというふうに書かれております。それから、生地、村椿小学校についても、統合を検討する必要があるというふうにここには書かれておまして、これらが当然議会の皆さんにも説明してありますので、こういうことについても、学校の耐震化とか、設備の問題とあわせて、こういうことについてもほんとうは意見をいただきましたかったんですが、今日は時間がありませんので、そういうことも具体的に検討する時期に入っておりますし、また、これらの学校教育基本計画の進捗についても検討する組織を今つくろうと。計画をつくっただけで忘れられていっては困るので、そういうような計画の進捗状況も確認する組織を今立ち上げるところでございます。

【事務局】

Hさん、よろしいでしょうか。

それでは、申しわけございませんが、最後、お一人の方のご提案をお願いしたいと思います。

いらっしゃいませんか。いらっしゃらないようでありますので、時刻のほうも、ちょっと早いのですが。

【市長】

せっかくの機会になりますので、もう一つだけ閉会のあいさつの前に皆さん方にお話ししたいことは、お話が出るかなと思って言わなかったんですが、病院の改築のことです。このことについても、具体的に庁舎改築のマスタープランというものを策定しておるわけでありましたが、実は、先ほどは、医師については何とか確保しているということでもあります。今現在、常駐の医師が62名おられます。そして、研修医が17名、合わせて79名おられて非常に助かっております。今のところ、若干不足ぎみのところも科によってはあるんですが、ただ、一方では、看護師の確保にほんとうに悩んでおります。今年も25人募集をしてまだ半分です。2次募集までしたんですが、今の段階でまだ半分です。ですから、もし10人ずつ欠員が出たら、3年間で30人なんです。

もしこういうことが続いたら、それは幾ら医師を確保していても現場が回らなくなりますので、何らかの対処をしなければならなくなるということでもありますので、今はおかげで順調に病院経営がいておりますが、将来の見通しでいったらこのままではだめだということで、先ほど言いました、今後、平成29年までは今の病院は当然運営しながら建てかえをしていくわけですから、こまを動かすように1つを駐車場につくって、できたらそこへ移るものを壊して、次のものをまた建てて、次にまた壊してということをごまを動かすようにやっていきたいと思っておりますので、実際工事にかかってから完成するまでにおそらく5年以上はかかるだろうというふうに思っておりますので、そういうことをスムーズにやっていって、そして、平成29年までには大改築を終わらせたい。

9月の市議会では、その予算が119億というふうに発表しました。そこまではもう少し精査して落とす

ものは落とさないといかんですが、いろいろ検討した中で何とかやれる範囲かなというふうに思っておりますが、一方では、看護師の確保がもしできなかつたら、建物も機械も立派になつても、そこで働く看護師がいないということになったら大変困りますので、ぜひ皆さん方には、看護師確保に対して絶大なるご協力をいただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

【事務局】

それでは、以上で本日のタウンミーティングを閉じさせていただきたいと思います。

閉会に当たりまして、堀内市長から本日お集まりいただきました皆様へのお礼も含めましてごあいさつを申し上げます。

【市長】

先ほども冒頭で言いましたが、大変お忙しい中、そしてまた、お疲れのところ熱心にお集まりをいただきました。ほんとうにありがとうございました。

総合振興計画の概要版というものを皆さん方全戸に配布させていただいたわけではありますが、詳細については公民館などにお配りをさせていただいておりますが、そこで書かれているものは、先ほどから何度も言いますが、10年間の中でうまく調整すればほとんどのものができるというふうに私は思っております。

ただ、先ほど言いましたように、年度ごとの平準化というものをしていかなかつたら、どこかで高い山を、今年は仕方ないけど、あれも早くやってほしい、桜井中学校の話もあった、庁舎の話もある、病院の話もある、そういうものの中であまりでこぼこをつくると、自治体の財政健全化比率といいますが、実質公債費比率とか、将来負担比率とか、そういうものがしょっちゅう新聞に公表される時代になっておりますし、また、そういうものを公表しなさいというのが国の方針ですから、財政健全化法の中でそういう指数は必ず公表しなさいと。そして、市民の皆さんに見てもらって厳しく審査をいただいて、それでいいのかどうなのか、そういうものを財政の比率を高めるために利用していくというような、そういう制度に変わってまいりましたので、皆さん方の理解が得られなかつたら、今言っているような計画というのは進めることができません。

そこで、今言っております総合振興計画の重点課題については、皆さん方の理解をいただけてうまく調整すればおおよそのことはできます。何とかそれを実現するためにご協力をいただきたいというふうに思っています。

また、一方では、先月から地区の要望会、16地区から各地区でどういう要望がありますかということでご参加いただいた方もたくさんおられますが、その場にたくさんの要望、313件、各地区から要望をいただきました。昨年よりそれでも、昨年は421件でしたから100件余り減ったところではありますが、地区の、自分たちの地元の、足元の要望というものを、やはり緊急性のあるものもありますので、そういうものの緊急性とか重要度というものを皆さん方と相談させていただいて、要望をいただいているものの中で、全部はできませんが、少なくとも年間4分の1程度、300の要望をいただければ七、八十件は何とか重要課題とともにあわせて進めていけるというふうに我々は思っていますので、市全体をとらえた大きな課題の実現と各地区の要望をバランスよくやっていきたいと思いますが、地区の皆さんにおかれましては、いろいろと地区の中で優先順位を決めていただいて、またよく相談をさせていただいて、実現に当たっての条件など、条件というか、要は地権者などの関係があれば、それらにおいてもよく相談をさせていただいて、ご理解をいただければというふうに思っています。

合併をして3年目に入りましたし、新幹線は間違いなく平成26年までには走ってきます。24年の冬には

新幹線が見られると思います。24年の冬からテスト運転、テストランを始める。それは長野 黒部間で始まるものであるというふうに聞いております。冬に2回テストしたいということらしいので、24年の冬と25年の冬で26年開業と。ですから、もうほんとうに新幹線が、乗れないんですが、姿が見えるのはもう間もなくということでもありますので、それまでにどうしてもやらなければならない大きな課題がたくさんあります。ぜひそれらの実現に皆さん方のご理解をいただきたいというふうに思います。

黒部地区の市民の皆さん方は、そういった意味で非常にご理解をいただいている方がたくさんおられるというふうに思いますので、行政と市民の皆さん、あるいは黒部の企業の皆さんと力を合わせた協働によるまちづくりをこれからも進めていきたいというふうに思っておりますので、何よりも大事なものは、皆さん方と我々行政との信頼関係が一番大事であります。いろいろ不平不満もあると思いますが、そういうときはぜひ忌憚のないところでお話しいただいて、とにかく信頼関係を持って、これからの新しい黒部市のまちづくりに邁進していきたいというふうに思っておりますので、引き続きご理解とご協力をいただきますように心からお願いを申し上げて、閉会のごあいさつにかえさせていただきたいと思います。本日は大変ご苦労さまでした。

【事務局】

皆様、本日はどうもありがとうございました。お気をつけてお帰りいただきたいと思います。

なお、先ほどお渡しいたしましたアンケート用紙、出口のほうに回収箱がございますので、そちらへお入れくださいますようよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

了